

顕彰状

大澤慶己氏は、1926年3月6日、千葉県印旛郡に生まれ、旧制佐倉中学校、早稲田大学専門部経営科に学んだ。

氏と柔道との出会いは、1938年、旧制佐倉中学入学後であり、1941年に講道館に入門すると一週間後に初段を取得、その後順調に昇段を重ねた。全日本選手権へは1949年に初出場し8強に進出、以降計5回出場した。

当時の体重無差別の柔道界にあって、5尺5寸(167センチ)、18貫(67キロ)という小柄な身体で巨体・強力な選手と戦い、稽古で身に付いた軽妙な体捌きをもって、柔道の理念である「柔能く剛を制する」を発揮し、「今牛若丸」と評された。当時のある専門家は水際だった美技に感銘し、「近来とかく偉大なる体格の強力技が流行する傾向」のなか、「至宝的存在」であると賛嘆の辞を送っている。得意技は送り足払い、釣り込み腰、内股、体落とし、跳腰、大外刈り、大内刈り、内股透かし、払い腰、小外刈り、膝車、燕返しと非常に多彩であり、研ぎ澄まされた切れ味鋭い技で数々の名だたる強豪選手を宙に舞わし、柔道の神髄である「一本」を見事に体現した。

現役引退後は、その卓越した技と指導力を評価されて、初の講道館研修員となり、海外での指導も数多く、理に適った美しい技の示範・指導は柔道国際化に大きく寄与した。東京オリンピック柔道競技のコーチを務め、その後全日本柔道連盟国際試合選手強化委員会(女子)委員長、講道館女子部部長を歴任し、今日の日本および世界の女子柔道の隆盛にも大きく貢献した。加えて、国際審判員として、オリンピックや世界選手権大会では各国指導者・選手からも評価が高く、他の審判員の模範ともなった。

1953年からは本学柔道部師範として、さらに1963年には体育局専任講師に迎えられ、以後、人間科学部教授時代までの半世紀以上にわたり大学教育と柔道部の指導に貢献をした。

2006年1月8日、講道館より十段を授与された。これは、百二十余年の柔道の歴史のなかでも13人目の快挙である。

ここに早稲田大学は、柔道界と早稲田大学への永年にわたる功績と献身に対して、大澤慶己氏を早稲田大学スポーツ功労者として表彰し、その名誉を永く讃えるものである。

2006年3月25日

早稲田大学